



1. アワジチヒロ(第四紀更新世中期)、2. イタヤガイ(現生)、3. エゾキンチャクガイ(現生)、4. カズウネイタヤ(第四紀更新世中期)、
5. サトウニシキ(新第三紀鮮新世)、6. ダイシヤカニシキ(第四紀更新世前期)、7. ネイテア(中生代白亜紀)、8. ツキヒガイ(現生)、
9. モミジツキヒ(新第三紀鮮新世)、10. ヒオウギ(現生)

ちゅうせいだい はくあき

中生代白亜紀から現在までのイタヤガイ科二枚貝

イタヤガイ科は二枚貝の一グループで、ホタテガイなどのよく知られた種も含まれています。殻は扇形または円形で、殻頂の前後に耳とよばれる突起があります。このグループは古生代に現れ、とくに新第三紀以降では世界中に分布を広げ大繁栄し、多くの種が出現しました。貝化石の中では最も種数の多いグループの一つといえます。

イタヤガイ科の貝化石は識別しやすく、研究も進んでいます。また、現生種は大型で色や模様が美しいものが多く、貝殻コレクターにも人気のあるグループです。

企画展「シェルズー貝と貝化石からさぐる地球の歴史・環境」では、様々な種類・時代の貝と化石の生息環境、進化の道のりを紹介します。(地学担当：中尾賢一)

西祖谷の神代踊の太鼓

庄武 憲子

「西祖谷の神代踊」は、2022年11月にユネスコ無形文化遺産に拡張登録された日本全国41件の「風流踊」のうちの1件です。三好市西祖谷山村で古くから伝えられており、太鼓と小歌に合わせて踊り、男性の踊り手に様々な役があること、花笠を被った女性が円の外側で踊るなどの特徴があります(図1、2)。

中でも打ち手が肩から下げて奏でる大きな太鼓は、他地域ではあまり見られないものです(図3)。この太鼓について、1922年の記録に「胴は檜の薄板を曲げたものにて、長さ二尺七八寸(約82～85cm)、径二尺六七寸(約79～82cm)、鐵輪に稗牛皮を張り、鼓の如く麻縄にて、両面を等しく締めて撃つ也」とあります。現在使用されている太鼓は、鼓面の張替え修理が行われていますが、胴は、記録にあるとおりの曲物で昔ながらのものとされています。形態から神社などで神楽を奏でる「杵付き桶胴太鼓」と分類できそうですが、板を張り合わせる「結い桶」よりも古いとされる「曲げ桶」の胴である事に興味をそそられます。また鼓面の皮についても「母牛の胎内から取り出した子牛皮を用いる」という口伝えが記録されています。何かしら特別な太鼓という感じがしますが、残念ながら紀年銘や作者

銘などは確認できません。

西祖谷の神代踊で、なぜこのような太鼓が使われているのか気になって調べ始めたところ、三好市山城町「下名の百手」、高知県土佐郡土佐町の「南川百万遍祭」で同様の太鼓が使われていることを確認しました。

下名の百手は、4月第1土、日曜日に熊野神社と両皇神社で行われる伝統的な弓の行事です。悪疫退散、五穀豊穰、家内安全を祈念して弓矢で的を射ます。太鼓は行事に参加する一行が神社境内まで向かう「お練り」の際に背負われ、後ろ手で打たれながら進みます(図4)。また境内で弓矢が射られる最中、据え置きされて鳴らし続けられます(図5)。太鼓は下名の数軒の家で保有されていたもので、太鼓の胴は、西祖谷の神代踊と同様、やはり曲物です。新たに修理に出した胴は板を張り合わせたものに变化したそうです。鼓面の皮の材料については情報を得られませんでした。皮を張らせるために太鼓を囲炉裏の上方に置いていた記憶を持つ人がいました。

南川百万遍祭は、夏の土用に入った最初の日曜日に行われています。五穀豊穰、無病息災、家内安全などを祈願し、男衆が大谷寺の舞堂で巨大な数珠を持って回します。太鼓は伴奏として行事が終わるま



図1 西祖谷(善徳)の神代踊



図2 西祖谷(徳善)の神代踊



図3 神代踊の太鼓



図4 下名の百手（太鼓を先頭とする一行が神社境内へ進むところ）



図5 下名の百手（弓矢が射られる間、太鼓が鳴らされる）



図6 南川百万遍祭（舞堂の中央で太鼓が鳴らされ、数珠が回される）



図7 南川百万遍祭（数珠と太鼓の様子）

で鳴らし続けられます（図6、7）。この太鼓も胴は曲物で、鼓面の皮については、かつては牛ではなくカモシカの皮を張っていたそうです。現在カモシカの皮の太鼓がひとつ残っていますが、牛の皮の太鼓より音が良いそうです。

このほか、文献によって高知県吾川郡いの町越裏門での本川神楽、高知県長岡郡大豊町中内の百手、大豊町桃原の獅子舞でも、神代踊と同様の太鼓が使われていたことを確認しています。これらは、吉野川上流域で特徴的に使われていた太鼓のように思われます（図8）。

神代踊をはじめとする吉野川上流域の太鼓の起源をつかむべく、さらに調べ続ける予定です。四国内で同様の太鼓を見かけたことのある方は、ぜひ博物館までご連絡ください。（民俗担当）

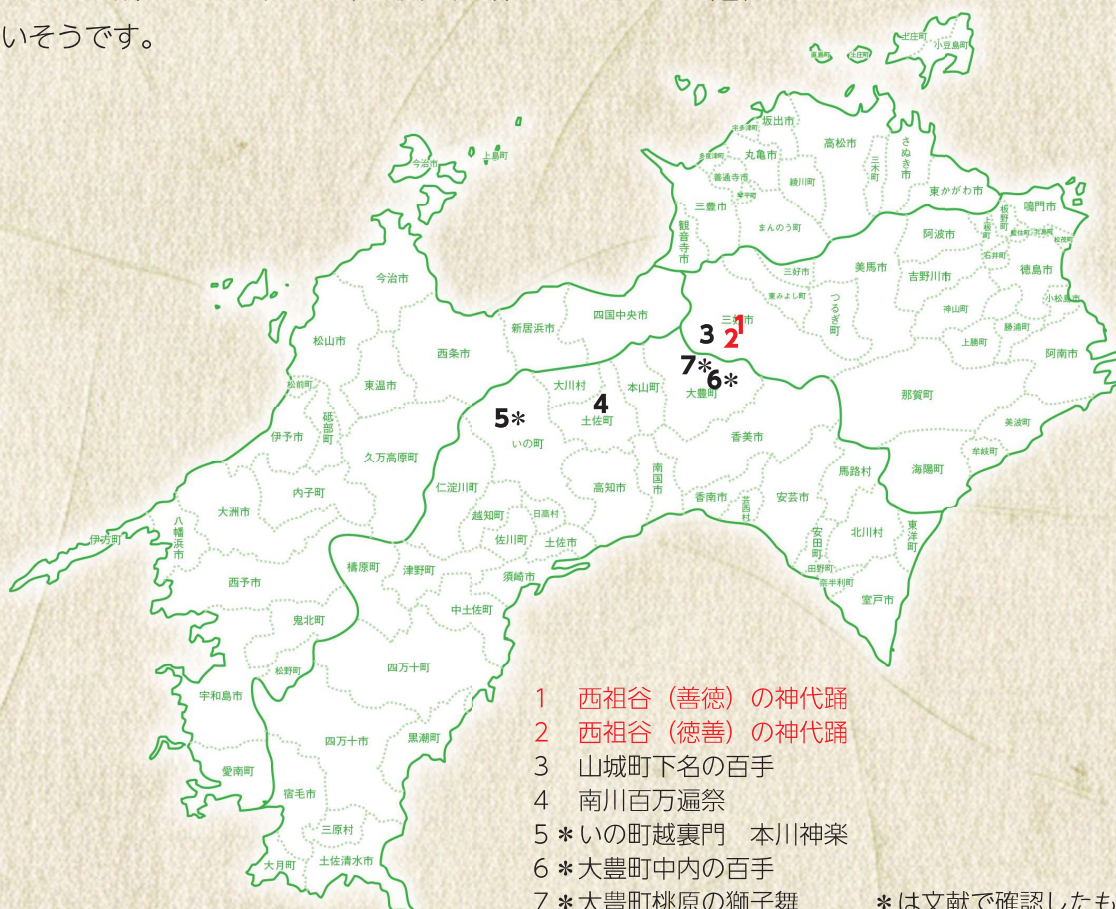


図8 神代踊の太鼓と同様の太鼓の分布



シェルズ

ー貝と貝化石からさぐる地球の歴史・環境ー

貝類(なんたい)は、節足動物(せつそく)に次いで種数が多く、とくに海中では最も繁栄しているグループです。沼や河川などの淡水域から深海底までのあらゆる水域に生息するほか、一部は陸上にも進出しています。その化石も、大型動物化石の中では最も多産し、地域や時代、環境によりさまざまな化石が産出します。これらの化石やその産状を詳しく観察すると、それらの貝類の生きていた環境や生態なども読み取ることができます。この展示で、地球上の多様な貝類と、その進化の歴史を見てみましょう。

会 期 2026年7月18日(土)から8月30日(日)まで

休館日 月曜日(7/20を除く)、7/21(火)

会 場 徳島県立博物館 企画展示室

観覧料 一般400円、高校・大学生200円、小・中学生100円

※土・日曜日、祝日、夏休みは高校生以下無料

※学校教育、社会福祉施設等での利用は無料

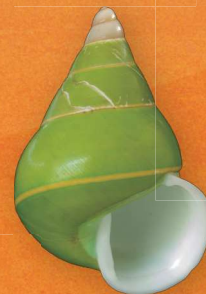
※高齢者(65歳以上)は半額(証明書等の提示が必要)

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等の所持者とその介助者1名は無料

※20名以上の団体は2割引



シロキキョウニシ
(第四紀更新世後期/鹿児島県)



ミドリババア
(現生/ババアニューギニア)



アオイガイ
(現生/福岡県)



ミズホスジボラ
(新第三紀鮮新世後期/高知県)



トウキョウホタテ
(第四紀更新世中期/千葉県)



クチキレウキガイ
(第四紀更新世後期/鹿児島県)

展示構成

- [1] 貝類とは
- [2] 貝類の分類
- [3] 貝殻の形と色・模様
- [4] 貝類がすむいろいろな環境
陸上/淡水域/岩礁(磯)/河口や干潟/
内湾の泥底/海浜/陸棚(大陸棚)/
外洋域の表層/深海/他の動物の表面や体内/
海底温泉や冷湧水/熱帯の海/冷たい海
- [5] 地質時代の貝類
古生代の貝類/中生代の貝類/新生代の貝類
- [6] 徳島と周辺の貝化石
- [7] 徳島と周辺の貝
- [8] 貝化石の調べ方
- [番外] 標本ギャラリー
きれいな貝、大きな貝、変わった形をした貝や貝化石

関連行事

① 記念講演会「^{シェル}貝～貝殻から読み解く太古の記録～」

日時 8月22日(土) 13:30～15:00

会場 徳島県立博物館 3階 講座室

※申し込み不要・先着50名・参加無料

講師 中山健太郎氏(福井県立恐竜博物館 研究員)

② 展示解説

日時 7月19日(日)、8月11日(火・祝)、8月30日(日)

いずれも 13:30～14:30

会場 企画展示室 ※申し込み不要・企画展観覧料が必要

講師 担当学芸員

③ 貝化石標本をつくろう

日時 8月23日(日) 13:30～15:30

会場 徳島県立博物館 3階 実習室

※申し込み必要(申し込み方法は8ページ参照)

定員 15人(申し込み多数の場合は抽選)

対象 小学校4年生から一般(小学生は保護者同伴)

講師 担当学芸員

空襲を乗り越えた 旧みずほ銀行徳島支店

今回紹介するのは、徳島市の東船場町にある、旧みずほ銀行徳島支店です（図1）。

この建物は元々、阿波農工銀行の本店として、1929年に建てられました。阿波農工銀行は、農工業の発展に向けた融資を目的として1900年8月に設立され、阿波藍の流通、生糸の原料となる繭の買付などに必要な資金を貸出した金融機関です。1937年3月に、阿波農工銀行が日本勧業銀行（現在のみずほ銀行の前身の1つ）に合併されると、日本勧業銀行徳島支店として引き継がれました。

太平洋戦争末期の1945年7月4日に、徳島市の中心部はアメリカ軍による激しい空襲を受けました。この空襲で多くの建物が焼失しましたが、旧みずほ銀行徳島支店を含む一部の建物は全壊を免れました。旧みずほ銀行徳島支店の北西側の基壇には、空襲による被災の跡が残っています（図2）。空襲を乗り越えたこの建物は、みずほ銀行徳島支店が2024年1月に移転するまで、銀行店舗として使われました。



図1 旧みずほ銀行徳島支店

今年に入り、アニメーション作品の制作を手がけるユーフォーテーブル有限会社が旧みずほ銀行徳島支店を取得し、5月16～17日に内覧会を実施しました（図3）。

旧みずほ銀行徳島支店の周辺には、旧高原ビルや、寺町の春日神社境内にある灯籠など、空襲の痕跡を確認できるスポットが多く残っています。これらのスポットの近くに行く機会があれば、是非とも立ち寄ってみてください。（歴史担当：坂東 泰）



図2 空襲による被災の跡(赤枠部分)
焼夷弾の直撃による破損が確認されています。

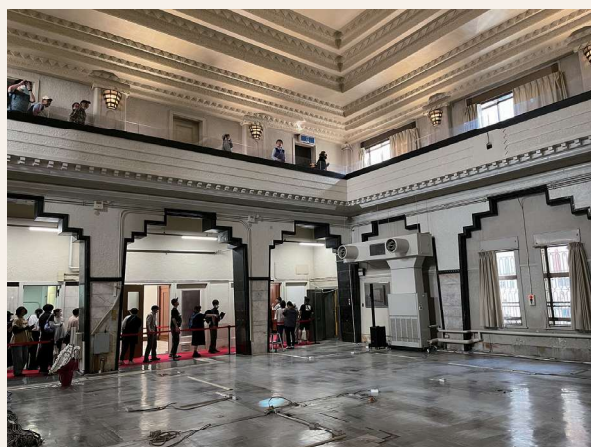


図3 建物内部の様子

徳島県南部での川魚調査



これまで、徳島県南部の川で何度か調査を行い、どんな魚が生息するのかを調べてきました。意外かもしれませんが、「県内の川にどんな魚が生息するのか」がしっかりと調査されている例は少ないのです。魚に限らず、どの川にどんな生物が生息しているのかわかっていなければ、例えば河川改修の際に、絶滅^{ぜつめつ}危惧種^{きぐしゅ}の生息地を知らないうちに破壊してしまったり、希少な生物の生息地に侵略的な外来種が放されてしまったりということが起きてしまいます。特に県南部は、南海トラフ地震に伴う津波の被害が想定され、堤防や水門の建設・強化などが進行し、生物をとりまく環境が大きく変化しています。

令和4年度に海陽町の伊勢田川^{いせだがわ}に生息する魚類を調査し、令和5年度には牟岐町の内妻川^{むぎうちま}・古江川^{ふるえがわ}と海陽町の鯖瀬川^{さばせがわ}・栗ノ浦川^{あわのうらがわ}に生息する魚類の調査を実施しました（図1）。その結果、伊勢田川で60種、内妻川・古江川・鯖瀬川・栗ノ浦川で47種が確認されまし

た。また、レッドリスト（環境省版・徳島県版）で絶滅危惧種あるいは準絶滅危惧に選定されている魚類として、伊勢田川では10種が、内妻川・古江川・鯖瀬川・栗ノ浦川では9種が確認されました。私たちの調査によって、これらの河川では、一生のうちに規則的に海と川を回遊するような魚（通し回遊魚^{とおかいゆうぎょ}）や、海水魚だけれども河口の汽水域で生活したり、一時的に淡水域に進入したりする魚（周縁性淡水魚^{しゅうえんせいたんすいぎょ}）が特に多く生息し、魚が行き来できるように、川と海とのつながりが保たれていることが重要だとわかりました。水門や堰^{せき}の設置によって川と海とのつながりがなくなったり、河口の環境が大きく変わったりすれば、これらの魚は生きていけません。

生物多様性は私たちにたくさんの恵みをもたらします。生物と共存しつつ、うまく利水・治水・災害対策を講じていくためにも、地域に生息する生物の基礎的な情報が必要不可欠なのです。（動物担当：井藤大樹）



図1. A：伊勢田川の水中の様子、B：伊勢田川での調査の様子（阿波魚類研究会と協働で実施）。

徳島に残る平家の 落人伝承について教えてください。

平安時代末期、平清盛が太政大臣に就任するなど平家は栄華を極めました。しかし、治承4年（1180）に以仁王が発した平家追討の命令をきっかけに、平家勢力と反平家勢力による全国的な戦乱（治承・寿永の乱、源平合戦）へと突入することになります。平家は源義仲に京都を追われた後、一ノ谷（神戸市須磨区）や屋島（高松市）に拠点を構えましたが立て続けに敗北し、最終的には壇ノ浦（下関市）にて清盛が即位させた安徳天皇とともに滅亡しました（図1）。

ところが、徳島県の祖谷山（三好市）周辺には、合戦に敗れた平家の人々や安徳天皇が落ち延びて隠れ住んだという平家落人伝承が残されています。この伝承に関連する古い記述として、江戸時代に作られた『祖谷山旧記』という書物が挙げられます。『祖谷山旧記』とは、宝暦9年（1759）に作られた歴史書で、

祖谷山の有力な家の由緒が記されています。なかでも阿佐家と久保家の由緒には、清盛の甥にあたる平国盛（教経）が屋島の合戦の後に祖谷山へ逃れて隠れ住み、阿佐家と久保家はその末裔にあたるという記述があります（図2）。これらの記述からは、江戸時代の中頃には平家落人伝承が形成されていたことがわかります。

ただし、『祖谷山旧記』には安徳天皇に関する記述はみられません。そのため安徳天皇が祖谷山に隠れ住んだという伝承は、『祖谷山旧記』の成立以後に形成されたと考えられます。

平家の落人が実際に祖谷山へ逃れてきたのか、史実として確かめることは困難です。しかし、平家の人々や安徳天皇が落ち延びてきたという伝承が語り継がれてきたことそのものが、祖谷山の歴史にとって重要な事実だと言えます。（歴史担当：矢野大輔）

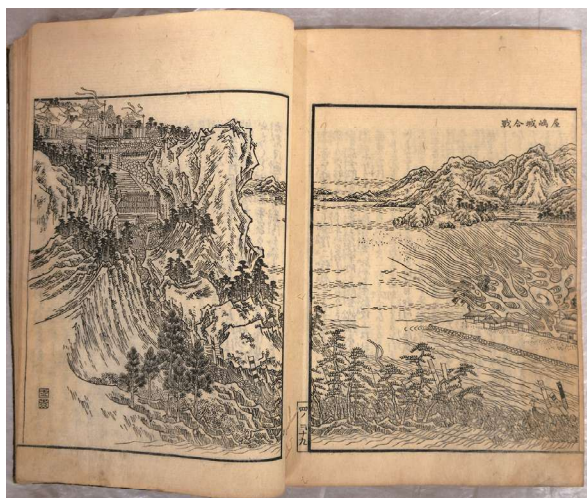


図1 屋島の合戦（『讃岐国名勝図会』より、当館蔵）
平家が拠点を構えた屋島を、源義経が攻撃しました。この合戦に敗れた平家の人々が祖谷山に落ち延びたという伝承が残されています。



図2 『祖谷山旧記』（当館蔵）
江戸時代の祖谷山の有力な家の一つである久保家が、平国盛（教経）の末裔に当たるとということが記されています。

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対 象 (定員)	備 考
野外自然かんさつ	川魚かんさつ 夏編★	7月5日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(20)	徳島市・園瀬川
	文化の森で夜のこん虫かんさつ 夏編	7月19日(日)	19:00~20:30	要	小学生以上(15)	文化の森総合公園
	漂着物を探そう!★	7月26日(日)	9:00~17:00	要	小学生以上(30)	集合:文化の森総合公園
	のんびりゆったり植物かんさつ 秋編	9月5日(土)	10:00~12:00	不要	小学生以上(20)	
	川魚かんさつ 秋編★	9月27日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(20)	徳島市・園瀬川
生きものしらべ隊	押し花で自由研究!★	7月5日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	
	スナプでかんたん顕微鏡かんさつ★	8月1日(土)	13:00~15:00	要	小学生以上(15)	
	顕微鏡でのごっこ!植物の世界	9月5日(土)	13:00~15:00	要	小学生以上(10)	
	魚類の頭骨標本をつくろう★	9月6日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(15)	
	シロロの葉っぱで生き物づくり!?	9月27日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	
たのしい地学体験教室	恐竜化石をさがそう!7月	7月18日(土)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	恐竜やカメなど脊椎動物化石が発見された場合は、博物館へ寄贈になります。
	化石のレプリカをつくろう	7月25日(土)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	材料費100円 高校生以下不要
	化石発掘調査のウラガワ見学	8月29日(土)	13:30~15:00	要	小学生以上(10)	
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	古銭が語る歴史	8月9日(日)				
	海陽町の特異な昆虫たち	8月30日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(30)	会場:阿波海南文化村 海南文化館
	海部町のいろいろ	9月13日(日)				
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①~⑥	9月19日(土)				
		10月17日(土)				
		11月21日(土)	13:30~15:00	要	一般(40)	①~⑥セット 申込みは9/7(月)まで
		12月26日(土)				
		1月16日(土)				
ミュージアムトーク	植物分類学概論3-分類学と系統学-	7月12日(日)	13:30~15:30	不要	小学生以上(15)	
	考古学からみた身近なものの姿・形	7月26日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	
	クモ学セミナー初級編	8月2日(日)	13:30~15:00	不要	小学4年生以上(50)	
	徳島市街地の荘園・富田荘の歴史	9月27日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	
企画展関連行事	企画展「シェルズー貝と貝化石からさぐる地球の歴史・環境」 展示解説	7月19日(日) 8月11日(火・祝) 8月30日(日)	13:30~14:30	不要	小学生以上	企画展観覧料必要 高校生以下無料
	記念講演会「貝〜貝殻から読み解く太古の記録〜」	8月22日(土)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	無料、先着順
	貝化石標本をつくろう	8月23日(日)	13:30~15:30	要	小学4年生以上(15)	
コレクションセクション 関連行事	歴史・文化コレクション「阿波の郷土史家 浪花勇次郎 一新篇の考古資料紹介」展示解説	8月2日(日) 9月20日(日)	13:30~14:00 13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要 高校生以下無料
	自然史コレクション「サトイモ科の植物展」展示解説	8月16日(日) 9月21日(月・祝)	13:30~14:00 13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要 高校生以下無料
	県民コレクション「竜脚類恐竜の歯化石発見から10年」展示解説	8月9日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要 高校生以下無料
	藍の葉っぱで遊ぼう	7月20日(月・祝)	10:00~12:00	不要	小学生以上(50)	祝日無料、先着順
博物館スペシャル	文化の森サマーフェスティバル	8月11日(火・祝)	9:30~16:00	不要	—	祝日無料
	標本の名前を調べる会★	8月16日(日)	10:00~16:00	不要	小学生以上	★参照

●★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。○小学生が参加する場合は保護者同伴です。◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物(昆虫・貝など)・岩石・化石などの標本の名前を調べる行事です。希望者は採集標本(1人30点以内)を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事の お申し込みについて

開催予定日の**1か月前から12日前必着**でお申し込みください。
参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。
原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでの お申し込み

1枚の往復はがきで、1
行事のみ申し込むこと
ができます。
右図のように記入し、
お申し込みください。

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
85 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何もうかかないで ください	85 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員の氏名 (学年・年齢) 3. 住所 4. 電話番号 (またはFAX番号)

●「行事申込フォーム」でのお申し込み

スマートフォン、タブレット等で
QRコードを読み込み、アクセス
してください。お申し込み後に
受付メールが自動返信されま
す。返信がない場合は、電話
(088-668-3636)または、FAX
(088-668-7197)でお問い合
わせください。



行事申込
フォーム

※提供いただいた個人情報は、お申し込みの
あった行事についてのみ使用します。

学校教育に博物館を!

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で
有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足
- 館内授業(博物館で)
- 出前授業(学校で)
- 博物館資料の貸し出し
- 教材研究のお手伝い

・学習内容に関する質問や実
験・観察の方法など、何で
もお気軽におたずねくださ
い。動物、植物、地学、考
古、歴史、民俗、美術工芸の
各専門分野の学芸員がご
相談に応じます。お気軽に
お電話ください。



火おこし(出前授業・館内授業)

特典がいっぱい! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自
然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。

個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参加
してみませんか。

- 年会費 ・個人会員2,000円
・家族会員3,000円

(10月以降にご入会の場合、会費はそ
れぞれ半額となります。)

■会員の特典

- ・友の会行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアム
ショップの商品を、1割引で購入することができます。
- ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元が届きます。
詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)



化石をさがそう!

お問い合わせは、徳島県立博物館まで (電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)